



キエヌギハキ



「あ、あの…儀式って
一体何が行われるんですか…?」

「なあに、心配すんな。お前の姉も母親も…
村の女は、みんな受けてきた神聖な儀式だ」

「そうそう、清華ちゃんは何もしなくても
俺らに任せてくれればいいんだよ」

（うう…そう言われても、
この格好恥ずかしいし、怖いんだけど…）

「よおし、じゃあそろそろ
始めるとするか!」



「えっ…あ、嫌ああああ！
な、何をするんですか…！？」

「何って、これが村に伝わる
清めの儀式だよ」

「そうそう。こうやって
体の中の邪気を吸い出すんじや」

「ま、待ってください…！
本当にこれが…あつ、駄目え！」

じゃろろろ

フニッ



「どうだ？」

「だんだん気持ち良くなってきただろう？」

「ううっ…」

「全然、そんなこと…ないです…!」

「そんなこと言って

乳首が固くなってきたおるぞ?
ぐひひっ」

じゃろっ

フニッ

「ほら、次はこいつを喰えるんだ！」

ヌパッ

「んっんん！ んぐうう！」

「神酒で清めたイチモツで
たっぷり浄化してやるぞ」

「こっちの穴からも
邪気を出さんとな」

クチュ
クチュッ



「よし、そろそろ出すぞ。
ちゃんと飲まないと儀式は成功しないからな」

「んっんっんぐっ…
うっ、んうううううううう…」

ド
ヤ
ッ

「へへっ、こっちの穴も
良い具合にとろけてきたぞ」

ク
チュ
ク
チュ
ッ

「さあ、ここからが本番だ！
俺のチンポで、しっかり身を
清めてやっからよ」

「嫌あああああ！ やめてえええ！」

「良い具合のマンコだ。
…姉の体も良かったからな、
妹のお前とこうして交われる日を
楽しみにしてたんだぜ。へへっ」

「酷い…！ 姉さんにもこんな…
んっ、あっ、あああん！」

「良い声で鳴くじゃねえか！
ほらっ、ここがイイのか！？」

「あっあっああん！
駄目ええええええええ！」

ズ
ポ
ッ
ズ
ッ

「うっ、そろそろイきそうだ…！
よしっ、中に出すぞ！
膣の奥までたっぷり注いでやる！」

「あっあああああああああああ！
嫌あああああああああああ！
お腹の奥に熱いのが
いっぱい出てるうううううううううう！」

ド
ダ
ッ

ビ
ュ
ッ





「この儀式は夜明けまでに
村の男全員、射精させなければならん！
よおし、こちらの穴も使ってしまうぞ！」

「あつ、痛っ……！！
そんなところ駄目ええええええ！
ひっ、あっあああああああ！」



「ぐははっ、どうだ!?!
二つの穴を犯される気分は!」

「あっあん! くうっ…はあああっ…!
もう嫌あ…こんなことお…!」

「そんなこと言って
アソコが濡れてきておるぞ!
雌の本能には逆らえん!
村の女はみなそうじゃった!
ほれっほれえ!」

「あっあんっああん!
もうやめてええええええ…!」



「よおし、そろそろ出すぞ！」

ド
ビ
ュ

「あつあつ、ああああ！
お尻にも熱いのが注がれて…！！
ああああああああああああああああ！！
駄目ええええええええええええええええ！！」

「よし次は俺の番だ。
清華ちゃん頼むよ！」

「は、はひい…」

「ほれっ、もつと腰も振らんかいっ。
…よし上手いぞ！
チンポがトロツトロのマンコに擦れて
気持ち良いわい！」

「どんどん扱かんと
儀式は終わらんぞ！」

「ひっ、あっ、あああ…！
おひんひんがいつぱいいい…！
あっあっああん！
奥に熱くて固いものが当たってえ…！
あっ…あああああ！」

ズパッ
ズパッ

「さあ、神聖な精液を
たっぷり浴びるんだ！」

「あっあっ、はあああああああ！
熱くてトロトロの精液が、カラダ中にいいい……！
身も心も浄化されてイクううううう♡」

「この儀式を後一か月、
毎晩続けてもらうからな！
頑張るんじゃぞ、清華」

「は、はい……
しっかり身が清められるように
精進します……♡」

ド
ポ
ッ

ド
ポ
ッ























